

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

チャバネアオカメムシ越冬調査結果（技術情報第14号）について（送付）
このことについて、チャバネアオカメムシ越冬調査結果を取りまとめましたので送付します。防除指導の資料として御活用下さい。

チャバネアオカメムシ越冬調査（平成18年冬期）

1 調査の目的

本県の果樹を加害するカメムシ類の中で、最も発生量の多いのは、チャバネアオカメムシである。このカメムシの越冬数（越冬調査による）は、5～7月の予察灯誘殺数と相関が高く、5～7月の発生量の目安になると考えられる。そこで本年の5～7月の発生量を予測するため、チャバネアオカメムシの越冬調査を行う。

2 調査方法（ふるい法）

チャバネアオカメムシは、主として落葉の下で成虫で越冬するが、体色が周りの落葉とよく似た暗褐色に変化し、また動きが鈍いため野外での発見は困難である。そこで、一定面積の落葉を集めてふるいにかけて、大型ポリ袋に入れ、約25℃の定温条件下に置き、4～6日後に落葉から出てきたチャバネアオカメムシの個体数を調査した。なお、落葉を集めた場所は、チャバネアオカメムシの越冬密度が高いと思われる、南向き斜面のシイ、カシなどの常緑広葉樹林を選んだ。

3 調査期間

平成18年1、2月

県下16カ所（1地点につき1m×1m×3カ所の計3m²調査）

4 調査結果

表1 県内各地点におけるチャバネアオカメムシの越冬数(単位:頭/3m²)

調査地点	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8	H7	H6	H5	H4	平年
熊本市河内町野出	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	2	0	1	0.2
熊本市河内町温泉	2	0	0	0	4	0	2	1	0	0	4	0	1	1	3	0.9
三角町郡浦	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0.4
三角町向山	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0.2
不知火町大見	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	0.2
松橋町豊福	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	1	0.2
豊野村安見	3	1	0	0	3	0	1	0	1	2	1	0	1	1	2	0.9
天水町赤仁田	0	0	0	0	2	0	3	0	1	0	1	0	0	0	1	0.5
山鹿市三玉	6	0	0	0	22	0	3	0	3	2	17	0	1	0	1	2.5
植木町木留	3	0	3	0	12	0	2	0	1	0	49	0	2	1	3	1.8
菊池市玉祥寺	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0.5
甲佐町寒野	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0.6
竜北町大野	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	0	5	0.8
田浦町太田	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	4	0.6
本渡市	19	1	2	0	10	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1.3
苓北町内田	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	14	1	1	1	4	0.8
合計(頭)	43	4	10	3	63	0	16	2	9	5	130	2	14	5	29	12.5

注:平年値は平成8年の多発年を除いた、平成4年から17年の13年間の平均値である。

5 考察

(1) 平成18年冬期のチャバネアオカメムシの越冬数は表1のとおりで、合計43頭と過去13年間では3番目に多かった。

なお、過去2番目に越冬数の多かった平成14年は、7月中旬にカキ園に飛来して落果を生じ、8月

にかけて温州やナシに吸汁被害が発生している。（8月1日注意報発令）

- (2) チャバネアオカメムシの5～7月の予察灯誘殺数は、当年の越冬数に比例する（図1）ことから、7月までの予察灯誘殺数は多いと予想される。
- (3) 果樹を加害するカメムシ類は、本県ではチャバネアオカメムシが多く、この種の発生動向を調査することによりおおよその傾向が把握できる。しかし天草や県南の一部地域においてはツヤアオカメムシの割合が比較的高く、ミナミトゲヘリカメムシ等の発生も認められるので、園周辺の状況に注意し初期防除を心掛けることが必要である。

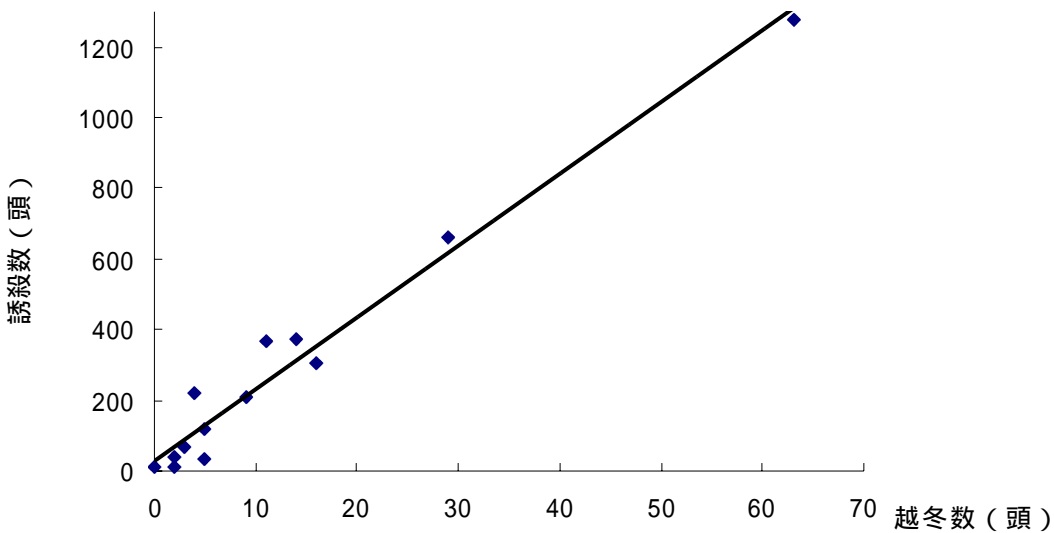


図1 チャバネアオカメムシの越冬数と5～7月期誘殺数との関係

注 平成8年のデータを除く。

誘殺数：予察灯における5～7月誘殺数（合志町）

越冬数：越冬調査16地点合計値（表1）